2026年　日本工学アカデミー（EAJ）政策提言委員会プロジェクト　第8回公開シンポジウム

自己紹介

――AIと人間・社会との関係が喫緊の問題となる時代について

北海道大学大学院文学研究院・教授
人間知・脳・AI研究教育センター（CHAIN）センター長

田口　茂

CHAIN

自己紹介

田口　茂
北海道大学大学院文学研究院・教授
人間知・脳・AI研究教育センター（CHAIN）センター長

専門

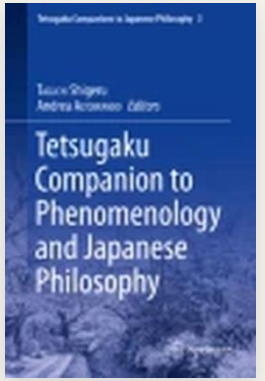
専門は哲学。特に現象学（フッサール）。意識、自己、間主観性などを扱ってきたが、近年は神経科学・数学・ロボティクス・AI・認知科学などの研究者との共同研究が活動の中心となっている。目下「媒介」（mediation）という概念を軸に、科学にも開かれた哲学のあり方を模索している。













主な著書

Das Problem des 'Ur-Ich' bei Edmund Husserl. Springer: Dordrecht, 2006.

『フッサールにおける〈原自我〉の問題』法政大学出版局, 2010.

『現象学という思考――〈自明なもの〉の知へ』筑摩書房, 2014.

『〈現実〉とは何か――数学・哲学から始まる世界像の転換』筑摩書房, 2019.（西郷甲矢人氏との共著）

『行為する意識』青土社, 2025（吉田正俊氏との共著）

人間知・脳・AI研究教育センター

Center for Human Nature, Artificial Intelligence, and Neuroscience (CHAIN)

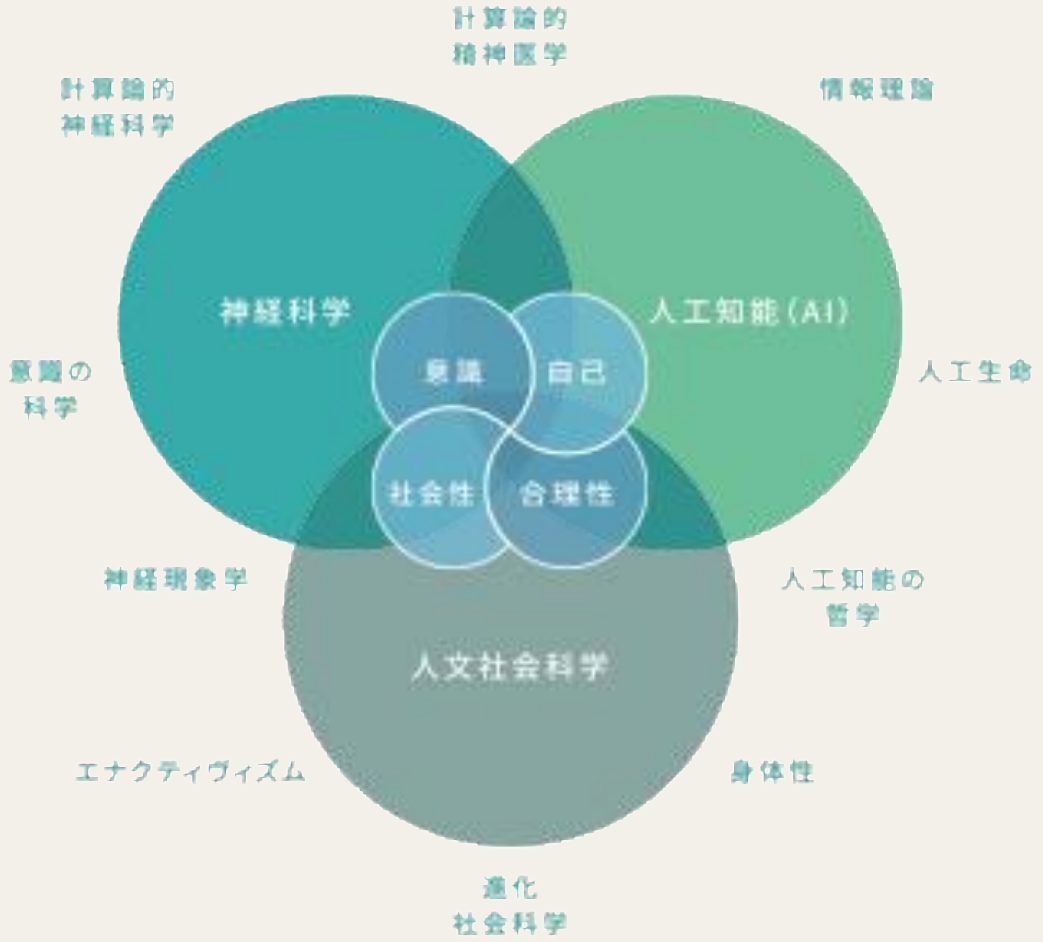
CHAIN

2019年7月1日設立
文学研究院のイニシアチブ

センターの目的

人文社会科学・神経科学（脳科学）・AI（人工知能）という三つの分野が交差する地点で、学際的・文理融合的教育・研究を行う。

そこにおいて、**新しい「人間知」**が成立する。



AIの発展と人類の未来

AI技術の発展はとどまるところを知らない（再帰的自己改善のループ）。
何が起こるか？

人類存続の危機

AIが人間にはコントロールできなくなる。

様々な手法が開発されているが、確立されたものはまだない。

人類文明の高度な発展

何らかの方法でリスクを回避。

人類文明の加速度的発展。

一種のユートピア？

どちらも極端な可能性であるが、可能性として否定できない。

AIがわれわれに問いかけている喫緊の問い

AIの発展は、すべての人間に哲学的問いを投げかけている。

1. 人間は何のために生きているのか？何もしなくても生き延びられるとしたら？
2. 人類はなぜ存続すべきなのか？全生物とAIに説明できるか？
3. 人類にとって技術の意味とは？「自然」と「人工」の区別とは？
4. 人類とAIのよりよい共生のあり方とは？そもそもなぜ他者を尊重すべきなのか？

哲学・倫理学等、人文学の知と科学の知が一つに融合した知の領域が必須